

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 3 9 回相模原市地域包括支援センター運営協議会			
事務局 (担当課)	地域包括ケア推進課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 1 (直通)			
開催日時	令和 4 年 1 月 2 4 日 (月) ~ 1 月 3 1 日 (月)			
出席者	委 員	2 0 人 (別紙のとおり)		
	事務局			
	その他			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由	書面会議のため			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 令和 2 ・ 3 年度地域包括支援センター事業評価について</p> <p>(2) 令和 3 年度地域ケア会議 (地域づくり部会) 等の取組状況について</p> <p>(3) 高齢者移動支援推進モデル事業について</p> <p>3 報 告</p> <p>(1) 地域包括支援センター (正式名称) の積極的使用について</p> <p>(2) 横山地域包括支援センターの移転について</p> <p>(3) 高齢者福祉施策の見直し及び公の施設の廃止について</p> <p>4 閉 会</p>			

審 議 経 過

(審議を書面で行った理由)

新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために、委員等が一堂に会する方法によらず、書面により委員の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

1 開会

2 議題

(1)令和2・3年度地域包括支援センター事業評価について

議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

令和2年度地域包括支援センター運営状況調査の評価結果について

(坂本委員) 県民協等の定例会にオブザーバーとして地域包括支援センター (以下「センター」という。) が出席できるよう、市で取り組むべき。CSW等は将来的にはセンターに移行すべき。また、地域ケア会議個別事例部会を充実すべき。

(事務局) 関係団体 (民生委員等) の会議については、定期的に参加するよう努めてまいります。CSW等の業務は市社協へ委託し、センターと緊密に連携し、一体的に地域での体制整備に努めることとしております。

個別事例部会は、それぞれの地域の課題を踏まえ十分な検討ができるよう支援してまいります。

(穂苅委員) 総合相談支援について、下記 から を評価結果に記載すべき。

全国平均に対し、 18.1%となった理由

令和3年度に向けての対策

全センター平均では9.2%と全国平均を上回っているが、 との整合性
全体的に市、センター共に良く取り組んでいる。

(事務局) 18.1%となった理由は、総合相談支援に関する項目の全6項目中、2項目 (Q38、39) が令和2年度は実施出来ていなかったため、2項目のうちの1つであるQ39については、3 (4) のとおり、本年度実施しています。

Q38については、本年度は民児協に参加するなど取組を進めております。

センターの回答について、十分に考え方の統一がされていないことが今回の調査で明らかとなったため、今後はヒアリング等の機会を通じて、共通認識を深めてまいります。

(小林立委員) 地域ケア会議について全国調査を大幅に下回る結果となっている。コロナ禍で開催困難であったことは理解できるが、他市でどのように開催されているか等情報交換等があれば、全国調査レベルの評価に近づけたのではないかと。

また、コロナ禍で新たな課題が出現したと思われるので、今後の取組に期待したい。

(事務局) 更なる運営改善に向けて、様々な機会を捉え、他市との情報交換や状況把握に努めてまいります。

(黒沢委員)市とセンターでの差がある項目の改善を進めてほしい。権利擁護業務の消費者被害に関する情報提供について「少なくとも民生委員に対し情報提供をする」とあるが、指標に対する評価基準が低い。

(事務局)市とセンターでの差がある項目については、引き続き、改善に努めてまいります。

(古木委員)かなりの項目の実施率が100%となっており評価できる。しかし、地域ケア会議は多職種と連携して会議を行うため、コロナ禍では実施ができなかったためか低い結果で残念である。

(事務局)コロナ禍においても地域ケア会議等を実施できるよう、本年度は委託料にオンライン環境の整備に要する経費を加算しました。引き続き、必要な支援に努めてまいります。

(栗田委員)各項目の問いの数字と添付資料1評価資料の数字を合わせてほしい。また、地域の関係機関・関係者のネットワークのリストの確認の方法はなにか。

(事務局)わかりやすい資料の作成に努めてまいります。

また、各センターでマップもしくはリストを活用し、地域情報誌に関係機関等を掲載しており、関係機関等の情報を管理していることが確認できます。

(佐藤委員)評価結果については、コロナ禍の影響が大きいと思う。危機管理体制作りのため、オンライン環境整備や、その他の支援を進めてほしい。

また、今後は、総合相談支援、包括的・継続的ケアマネジメントが重要だと思う。全国又は日本以外でも先駆的な取組や視点を学ぶ機会を提供して欲しい。

(事務局)今後も、オンライン環境整備など必要な支援を継続してまいります。

また、様々な機会を捉え、先駆的な取組などが学べるように努めてまいります。

令和3年度地域包括支援センター事業評価について

(坂本委員)ヤングケアラーのリサーチや子どもへの認知症サポーター研修実施する事は非常に大切であるが、現状のスタッフでは足りない。将来的には専門職を増加すべき。

また、認知症カフェを一日も早く再開すべき。

(事務局)地域共生社会の実現に向け、適切な職員配置の検討等を進めてまいります。また、認知症カフェは、コロナ禍のため、オンラインも活用し開催しております。

(穂苅委員)市センター関係課職員に向けて、「センター事業評価についての研修会」を12月に計画しているが、5月に計画している「センター長ヒアリング」の前に実施すべき。研修で得られた知見、ノウハウ等を活用し、「センター長ヒアリング」を実施すべき。

(事務局)次年度の「センター長ヒアリング」に向けて、適宜適切なタイミングで、研修などを開催してまいります。

(石川委員)コロナ禍に職員も慣れて、対面からオンラインに変えるなど、様々な事業が出来ていると思う。

また、年度途中での中間評価は、目標を修正する意味においても有意義だと理解で

きた。

(事務局)引き続き、感染状況等を踏まえ、より良い運営に努めてまいります。

(黒沢委員)コロナ禍での停滞、高齢によるオンライン機器の取扱が困難など、やむを得ないことは理解できるが、テレビをつける・電気をつけるレベルでのオンラインツールを共同で開発するなど、オンラインへの間口を広げてもらえると尚良い。

(事務局)現時点では、テレビをつける・電気をつけるレベルでのオンラインツールの開発の検討の予定はありませんが、オンライン機器の操作方法の支援などに、引き続き取り組んでまいります。

(久松委員)本年度でなくとも良いが、今後センター職員とのヒアリングに運営協議会委員が関与することはないか。

(事務局)現時点では、直接、委員の皆様にはヒアリングに同席いただくことは想定しておりませんが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、センターの現地視察などを検討してまいります。

(古木委員)固定の場所での相談会を設定しても来所者が少ないとのことであるが、巡回イベントもよいと思うが、夜間などは実施するのか。

(事務局)センターの営業時間は、原則、月～金曜日の8時30分～17時15分となっておりますが、それ以外の日時で相談会なども開催することがあります。

(栗田委員)地域づくり部会等の話し合いに、認知症家族の会、障害者の会など、またキャラバンメイト連絡会員の参加の予定はあるか。ないならば今後検討してもらいたい。当事者や関係者の話を聞き、意見を反映させることは有意義なことだと思う。

(事務局)地域づくり部会等の構成員は、多様な意見を反映させるため、各地域の実情や、会議の目的に応じて選定されています。

(佐藤委員)医療との連携は、病院以外に訪問診療・看護・リハビリ・歯科・マッサージなども含めて介護予防ケアマネジメントにもつなげて欲しい。(居宅療養管理指導サービスの有効な活用など)

また、認知症に関する相談場所設置には、当事者や家族の運営への参加や意見を取り入れるようにしてほしい。

(事務局)介護予防ケアマネジメントの質の向上のため、継続して各専門職の意見を取り入れてまいります。

また、事業や状況によって、直接、当事者や家族の参加や御意見をお聞きしてまいります。

(2) 令和3年度地域ケア会議(地域づくり部会)等の取組状況について

地域ケア推進会議関連

議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

令和3年度地域ケア会議(地域づくり部会)の取組状況について

(小林輝明委員)コロナ禍で外出ができない中、高齢者の体力低下や生活のしづらさの課題に対し、工夫を凝らした健康づくりや買い物支援などの取組がされている地域があることがわかった。まだこのような状況が続くと思われるので、これらの工夫を他地域と情報共有できると良いと思う。

(坂本委員) 星が丘地区では、社協・地区連・老人会の協力を得て「みんな元気にあるき隊」を結成(個人参加)し、ウォーキング表を支援センターで配布し、4周達成したらセンターでタオル等の賞品をいただいて、次の目標に向かってチャレンジしてもらっており、現在100名以上の方が参加している。

(石川委員) 地域によって特色を生かした活動ができている。地域のニーズを正確に把握することが大事だと思う。

(梶山委員) 高齢者は新型コロナウイルス感染症の重症化リスクもあるうえ、オンラインなど新しいツールを使用することが困難なことが多く、支援活動がなかなか進まない状況だったと思う。他市町村(他県も含め)の取組事例などを参考にして、しばらく新型コロナウイルス感染症とは付き合うことになると思うので、より一層の支援活動を希望します。

(黒沢委員) 買い物について課題が大きいと感じるため、市・センターが移動販売業者と提携していくなど、更なる工夫をしてほしい。

(佐藤委員) 緊急事態宣言等の影響が大きかったと思うが、市として新しい生活様式の方針に沿って、それぞれの地域の工夫や取組を支援してほしい。また、市全体の市民活動団体や社会資源のネットワークづくりをサポートして活性化につなげてほしい。

(栗田委員) 各地区、試行錯誤しながら、様々な事業を行っている。各地区の情報交換は行われているのか。

(事務局) 本年度は、コロナ禍のため、各地区の情報交換を実施していないが、第8期高齢者保健福祉計画別冊として各圏域の社会資源情報と地域づくり部会の取組をまとめた冊子を配布し、書面での情報共有を図りました。

令和3年度シニアサポート活動の取組状況について

(小林輝明委員) コロナ禍で、十分な活動ができない状況だと思うが、ボランティアスタッフの方のモチベーションを保てるように研修や情報共有などをしていくことは大事だと思う。

(事務局) ご意見のとおり、引き続きCSW等と共に、団体への研修や情報共有などの支援に取り組んでまいります。

(坂本委員) シニアサポート通所型については、人数制限しながら実施すべきである。

(事務局) コロナ禍での活動となっており、人数制限等感染予防対策を十分に講じて実施しておりますが、団体の意向を踏まえながら、無理のない範囲での活動をお願いしております。

(石川委員) コロナ禍が原因だと思うが、活動が減っているのが残念。シニア活動が認知されていないので、認知されて、活動される人たちが増加されると良い。利用したい方はこれからもっと増加していくと思う。

(事務局) 今後もシニアサポート活動がさらに認知されるよう、CSW等及びセンターと共に周知など取り組んでまいります。

(梶山委員) 他の市町村の活動を参考に、コロナ禍でも実施できるような内容を検討する必要がある。

(黒沢委員) 要介護者が増えているので、予防的視点に今後も力を入れて、要介護状態

の維持や改善に努めてほしい。

(佐藤委員)CSW等の役割が重要だと思う。地域に周知して地域づくり部会の活性化につなげてほしい。シニアサポート活動も今後はオンライン活用が必要と思う。

(事務局)いただいた御意見を踏まえ、取り組んでまいります。

(富樫委員)シニアサポート活動をもう少しこういう事(活動)をやっているとアピールをしたほうがよいと思う。

(事務局)今後もシニアサポート活動がさらに認知されるよう、CSW等及びセンターと共に周知などに取り組んでまいります。

(3) 高齢者移動支援推進モデル事業について

地域ケア推進会議関連

議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

(穂苅委員)令和4年度も継続してモデル事業を実施とあるが、具体的に何地区を想定しているのか。地区の指定は手上げ方式か。

また、介護保険の総合事業等による運行費用の補助の検討を行うとあるが具体的な補助事業の内容等を何時頃、協議会に説明出来るのか。

(事務局)令和4年度も、以前に手上げ方式で選定された城山地区、麻溝地区をモデル地区として実施します。

また、具体的な補助事業の内容等については、次回の7月の本協議会において、御説明できるよう進めてまいります。

(佐藤委員)移動支援は、介護予防ケアマネジメントにとって重要と思う。市全体として社会福祉法人やNPO法人、生活協同組合、民間事業所なども含めて、地域社会の課題として協議を深めてほしい。

(小林輝明委員)市民や法人等で進められていると思いますが、継続して行うためにも、車両確保や運営費・維持費などの補助は必要。今後、高齢化がますます進むとどこの地域でも移動の問題は必須だと思われます。モデルとして取り組むために補助金等の支援策の検討はぜひお願いします。

(黒沢委員)コロナ禍での車内の「密」に注意を要するが、移動手段や付き添いの確保ができれば行動範囲が広がられるので、今一番力を入れてほしい取組です。

(石川委員)とても良い取組だと思う。相模原の全地域でこのような取組が進んでいくと良い。

(幡野委員)住民主体の活動を推進することは、まちづくりの観点からも有意義であると考えます。

(事務局)引き続き、事業の具体化に向けて取り組んでまいります。

3 報告

(1) 地域包括支援センター(正式名称)の積極的使用について

(小林輝明委員)高齢者問題は、高齢者のみならず家族や地域、経済等複雑な福祉問題が絡み合っているケースもある。そういう背景から、高齢者関係に限らず、関係機関や関係団体、地域と一体的に課題に取り組んでいく必要があると思うので、この名称を

- 積極的に使用することで、センターも周囲も意識を持って取り組んでいけると思う。
- (坂本委員) センター間や市関係部署との連携交流は非常に大事なので、早急に実施して欲しい。
- (畠山委員) コロナ禍で活動が制限されているが、令和4年度は関係団体に積極的にアピールすることを期待致します。
- (石川委員) 高齢者支援センターより、なじみやすい。
- (佐藤委員) 複合化、複雑化したニーズに包括的な支援を行うセンターとしての位置づけが市民に伝わる言葉で、市民に届く方法で具体的に周知してほしい。そして、市関係部署や関係団体、医療など、連携のためには、お互いに制度や実態、課題について理解を深めることが必要と思う。
- (事務局) 引き続き、センターでの相談体制の充実と合わせ、関係部署との連携・協働が円滑に図られるよう、支援を進めてまいります。

(2) 横山地域包括支援センターの移転について

- (石川委員) 広くなり良いと思う。
- (栗田委員) 交流スペースが確保できたのは良いと思う。
- (佐藤委員) 移転をきっかけに、交流スペースが確保できたこと、それを住民がどのように活用できかなど広報することで、地域での周知が広がると思う。
- (事務局) 新しい事務所にて滞りなく業務が進められるよう、また、交流スペース等を活用した事業や地域活動の充実に向けて支援を進めてまいります。

(3) 高齢者福祉施策の見直し及び公の施設の廃止について

地域ケア推進会議関連

- (坂本委員) 敬老事業についても見直しが必要。社協が実施している敬老事業は80歳以上の対象者を全て網羅しているが、自治会や老人会が実施しているところは、会員のみが対象となっている。将来的には敬老事業を廃止しても良い。
- (畠山委員) 敬老金はここ10年ぐらいで大分見直しがあり、現在の88歳と100歳だけになった。その一方で100歳迄健康で長生きを奨励している。財政面の事もあがるが、高齢者に冷たいのではないかと。
- (小林立委員) 100歳は大きな節目であり表彰(表彰状でも)や記念品でもあると、家族にとっても励みになると思う。
- (石川委員) 市の財政を考えると仕方ないと思うが、敬老会にしてもマッサージ助成金にしても現行が維持できると良い。高齢者にとっては、特にマッサージ助成金は有りがたい金額なので、減額されるのは厳しい。そのサービスが使えなくなってしまうと思う。
- (古木委員) 高齢者施設は住まいの近くにあると通えるが、遠いと無理で、バスなど使えるのなら減らさず、継続して何らかの建物で行って欲しい。独居の高齢者などには、特にお喋りや、身体を動かす場所は健康維持の為にも必要と思う。
- 敬老金は必要ないと思うが、細やかな記念品は考えて欲しい。
- (栗田委員) 廃止になる場合、代替の案を検討してもらいたい。

(事務局)引き続き、事業の見直しを進めてまいります。

(黒沢委員)難聴が原因で、人が集まる場所に出てこない人も多い為、助成は助かる。要件のハードルは低くしてほしい。

(事務局)モデル事業を実施し、検討を進めてまいります。

(佐藤委員)重層的支援体制整備事業は市の任意事業ということで、市民に身近な地域の特性に合わせた支援ができると思う。体制づくりのサポートをしっかりと行ってほしい。

(事務局)引き続き、地域共生社会の実現に向けて、支援体制を検討してまいります。

(穂苅委員)高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための福祉施策の展開について、令和4年4月～地域の意見聴取、モデル地区の選定、モデル事業の実施とあるが地域の意見聴取はどの団体を想定しているのか。私案としては市の全ての「まちづくり会議」に意見聴取を行うことはどうか。

(事務局)モデル事業の実施については、令和4年度に検討を行っていく予定です。各地区の現状や課題等を把握する上で、必要な団体等への意見聴取を検討してまいります。

(佐藤委員)「連携型」認知症疾患医療センター設置に関しては目指す目的に沿った運用をしてほしい。

(事務局)医療相談体制等の充実や市民の利便性の向上を図るため、関係機関や団体等と調整をし、事業の実施を進めてまいります。

4 閉会

以上

相模原市地域包括支援センター運営協議会委員名簿

令和4年1月開催

		氏名	ふりがな	選出団体等	出欠席
1	委員	石川 寿美子	いしかわ すみこ	相模原市介護老人保健施設協議会	出席
2	委員	梶山 和美	かじやま かずみ	神奈川県看護協会相模原支部	出席
3	委員	栗田 愛子	くりた あいこ	公募市民	出席
4	委員	黒沢 慎五	くろさわ しんご	さがみはら介護支援専門員の会	出席
5	委員	小林 輝明	こばやし てるあき	相模原市社会福祉協議会	出席
6	委員	小林 立	こばやし りゅう	相模原市高齢者福祉施設協議会	出席
7	委員	坂本 洋三	さかもと ようぞう	相模原市地区社会福祉協議会	出席
8	委員	佐藤 優子	さとう ゆうこ	公募市民	出席
9	委員	澤田 弘之	さわだ ひろゆき	相模原市薬剤師会	出席
10	委員	田中 雄一郎	たなか ゆういちろう	相模原市歯科医師会	出席
11	委員	富樫 るみ	とがし るみ	友知草の会	出席
12	委員	西田 洋子	にしだ ひろこ	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
13	委員	畠山 秀美	はたけやま ひでみ	相模原市老人クラブ連合会	出席
14	委員	幡野 公香	はたの きみか	神奈川県社会福祉士会相模原支部	出席
15	委員	原田 裕也	はらだ ゆうや	神奈川県弁護士会相模原支部	出席
16	副会長	久松 信夫	ひさまつ のぶお	学識経験者	出席
17	委員	舟戸 麻衣	ふなど まい	日本公認会計士協会神奈川県会	出席
18	委員	古木 玲子	ふるき れいこ	公募市民	出席
19	委員	穂苅 健二	ほかり けんじ	相模原市自治会連合会	出席
20	会長	水上 潤哉	みずかみ じゅんや	相模原市医師会	出席

五十音順